



令和8年 3月 31日

岩倉市議会

議長 須藤 智子 様

堀江 珠恵

東京都世田谷区 視察報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1. 実施日 令和7年7月31日(木)
2. 研修先 東京都世田谷区役所
3. 復命事項
別紙のとおり

世田谷区キャリア教育及び教科「日本語」

行政視察報告

令和7年7月31日に東京都世田谷区に行政視察へ行って来た。全国どこでもだが、外国籍の子どもたちが増えてきた。各自治体では「日本語教室」を行っているが、期間限定で帰ってしまう子どもたちや永住する子どもたちがいる中で、日本語の習得率はまちまちであると感じた。言語を習得する前に「日本」の文化や言語に触れ、「日本」を好きになってもらうことが大切なのではないか。また、子どもたちの読解力の低下も近年感じられる。東京都世田谷区では、そんな危機感から「国語」ではなく、「日本語」を教科として取り組んでいる。岩倉市でもこの取組を検討提案するため視察に行ってきた。

① 教科「日本語」の導入した経緯は？

世田谷区教育振興基本計画基本方針としての一つに日本文化について理解を深め、日本への愛着や誇りを持ちながら、世界に視野を広げること。価値観の多様化や情報化・国際化が進展していく中、コミュニケーションが上手にとれない人の増加、様々な面での社会性の欠如等の課題が指摘されていた。「ことばの力」を育成することが、これからの日本の教育にとって、最も重要なことの一つ。平成14年時に言葉の乱れや読解力の低下があり、それぞれの学校で行っていたが、平成16年には世田谷「日本語」特区になり、平成19年から総合学習の時間を減らし全校に始まった。

② 「国語」と「日本語」の教科の違いは？

「国語」は文法など基礎的なことであるが、「日本語」は「ことばの力」の育成のためである。目標として日本人が培ってきた言語文化や感性、人々の生き方などについて深く考えたりしていく。そのため、「国語」の補助ではなく、幅広い教科に繋げて深く学ぶ形になっている。

③ 外国籍の児童生徒向けではないのか？ その違いは？

従来の日本語教室とは別で、授業カリキュラムになっている。外国籍の児童生徒も同じように学んでいる。日本語の響きやリズムと一緒に楽しむこととしている。

④ 指導する先生はどういった人か？

「国語」の教科とは別のため、指導する教員が少ないのは課題。

⑤ 内容は学年によってどう進めているのか？

2012年以降、教育基本法が改正になり、社会の教科に「郷土愛」を育てることが盛り込まれたことにより、教科の内容が変更になったりしている。教育課程特例校制度を活用しており、一つの教科の内容事項のすべて及びもう一つの教科の内容事項の一部が取り扱われている。教科を横断して行われているのが特徴である。

⑥ キャリア教育の取組について

特徴的だったのが、市立保育園、認定こども園、園児から取り組みをしている。幼稚園とも連携をしている。幼児期からの学びの連続性で非認知能力の育成を目指している。

【所感】

教科「日本語」では、国籍関係なく、日本の文化や歴史などに触れ、コミュニケーションと教養を大事にしていると感じた。近年子どもたちは、読解力が乏しいと感じる部分があり、また中学生は受験のための「国語」を解くといった部分が強調されているように感じる。現状、受験のためには必要な学びも大事であるが、日本語は、長い歴史の中で、和歌や古事記を現代人でも読んで楽しむことができる、世界で類をみない言語であるため、もっと子どもたちが、日本語に触れ、日本に誇りを持てる子どもたちが増えることが、生きる力を養っていけるのだと実感した。岩倉市においても、日本語の楽しさを触れる取組を、形は違っても取り組んでいくことが、地域の一員として考えられる人材を育成できるのではないかと考えた。